

2019年2月1日

2018年度第3四半期決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q: 第3四半期までの営業利益の実績が、社内計画に対してどれ位の上振れだったのか。

A: 正式には未公表だが計画対比でいうと、だいたい上期の貯金を維持している位。もう一つ言えることは、われわれは第4四半期偏重型のため、会社としてもそれをなるべく平準化、前倒しをしようとしている動きもある。

Q: メカトロに関して、通期でのブレークイーブンが今回はできないということだが、この理由はブラジルだけと考えていいのか。

A: ブラジルの要因とその他の要因がある。まずブラジルについては、これはリストラの開始が第2四半期の頭からという時期の問題もあり、第1四半期の赤字を打ち返していくというハンディがそれなりにあったということ。その他では、ブラジル以外のATMについては、台数ベースでいうと実は中国を除くグローバルや国内で昨年よりも増えているが、グローバルにおいては、台数が増えると戦略的な価格や開発投資の負担もあり収益的には厳しい。予想よりも伸びていることはビジネス的にはいいのだが、収益的には制約要因になっている部分もあるといった状況。

Q: プリンターに関して、今期大きな上方修正になっているが、年間で見ただけで55億円という営業利益のうち、一過性の部分はどれ位あって来年度にこれが反動減として減るリスクをどの程度見ておけばいいのか。

A: 今年度は消耗品の売上について、代理店を集約した際の増加や米中関税の影響もあって値上げを早めに行った効果などがある。そのうちのどれだけが一過性の要因かはなかなか計上しにくいですが、10億円内外はそういったものがあつたかと考えている。ここは精査をしていく必要がある。逆に、この後色々な新商品、付加価値の高いニッチなインダストリープリンターを投入していくので、その効果がどう出るか。これは来期の計上になるが、消耗品がなくなったら何もなくなるということがないようにしたいと考えている。

Q: 第3四半期のメカトロの事業のATMの台数の内訳は。

A: 第3四半期累計で、国内銀行系は1,700台、前年同期は1,500台。国内コンビニは、4,400台、前年同期4,000台。中国は1,700台、前年同期は3,300台。その他グローバルが、4,200台、前年同期は2,900台。全体で合計12,000台、前年同期11,700台。中国は、国を挙げ

でのキャッシュレスで、もともと想定していた。その中国のマイナスを補って、コンビニやグローバルで台数を伸ばした。

Q: 第4四半期の営業利益については差し引きすると100億円位になるかと思うが、これは前年同期並みで、第3四半期までのモメンタムから考えるとだいぶ利益の伸びが小さくなる。この第4四半期はどのような要因で利益が伸びなくなってしまうのか、どのような要素を織り込んでいるのか。

A: 基本的には、ほぼ前年並みの営業利益を見込んでいる。これにはいくつか要因があり、なるべく第4四半期からの売上の前倒し、標準化を図っているのが一つ。それから、EMSでのOKI電線の連結効果は、昨年第4半期から織り込まれているので、増減比較でいうと今第4四半期から貢献してこなくなる。また、分野別では、メカトロは前年の第4四半期に国内で大口の売上があったので、その利益影響がある。全般的には、特に情報通信を中心に、新しいPOC(Proof of Concept)や競争案件には戦略費用を増やしており、いわゆるイノベーション活動で経費を戦略的に増やしているため、全体では昨年並み位の収益の計上を見込んでいる。

Q: メカトロについて、今期営業損益を下方修正したが、中計で掲げている数値の目標自体の変更の可能性はあるか。

A: 中計については、別途の機会にお話させていただきたい。今回イーブンを諦めたわけではなく、黄色信号が灯っているので下方修正させていただいた。

Q: 差し引きで第4四半期の営業利益を見ると、情報通信はほぼ昨年と同じ107億円、メカトロが3億円の黒字、プリンターが10億円、EMSが13億円。このメカトロの黒字3億円は、大丈夫なのか。EMSについて、OKIはいわゆるスマホ向けではないと思うが、この第4四半期の黒字は大丈夫なのか。セグメント別の利益の差し引きの残りで、不安がありそうなどところないところを解説いただきたい。

A: まず情報通信については、第4四半期の計上が一番大きいのでとにかく前年並み以上に、きちんと刈り取っていききたい。メカトロは、まずリストラを第2四半期の頭で行ったため、ブラジルの赤字についてはほぼ止血できたと考えている。わずかずつではあるが四半期ごとに営業利益は改善しており、特段不安な要素は今のところない。その他グローバルでは、戦略地域におけるフットプリントを伸ばすことで台数は順調に増えているが、収益的には厳しいところもありこの選別をきちんと今やっている。プリンターについては、今構造改革も含めてビジネスモデルを変えており、各四半期の利益が特にある時期に偏重するようなこともなくならしながらやっているの、今のところ計画どおり着地できるのではないかと考えている。EMSは、EMSのお客様全部がというよりは、やはりファクトリーオートメーション(FA)の、特定のお客様で需要減の兆しがあるということで、これは最大

限計画に織り込ませていただいた。

Q: EMS の新規連結効果は、営業利益の前年同期比 10 億円プラスのうち何億円か。

A: 10 億円のうち 5 億円。

Q: OKI の EMS について、いわゆる台湾などの EMS と違い FA の部分が少ないと考えている。特に宇宙や医療などが大きかったと思うが、FA が悪いというのは、一般的な EMS の影響が多少あるのか。そうすると、この数週間位、ロボット、中国メーカー、FA 関係の各社が業績予想を下方修正されているが、逆にいうと、この第 4 四半期はその影響が確定しているが、来年度の 4~6 月もスローなのか、あくまでこの第 4 四半期で終わるのか、先行きの方向性を踏まえて教えてほしい。

A: まず EMS 全体は、宇宙やその他の分野も含めて業種を分散して攻めている。そういう意味で、従来のところで大きく影響が出ているかということそうではない。昨年連結した OKI 電線は FA 領域に強く、昨年 TOB をした時点では、逆にそういった領域を攻められるのではないかと考え TOB を行ったが、残念ながら直近の状況でいくと、OKI 電線のところでの影響が大きい。

Q: いよいよ 5G、御社の得意な IT、IoT のところが出てくるが、その辺の受注が増えてきたなど、何か 2020 年に向けて新しい兆しが出てきたということはあるか。それから、新規事業の中で海洋関係について、何か引き合いやビジネスの立ち上がりみたいなのがあるかどうかを教えてほしい。

A: まず 5G については、個別の各企業様、大手企業様との色々なお話が引き合いも含めて来ているが、かなり個別性が強いので開示は控えさせていただく。われわれとしては、やはり今まで培ったノウハウと、それからエッジの方にこだわりながら、われわれの業務特性やこれまでの実績が活かせる分野で、精力的に取り組んでいきたい。海洋部分については、次の戦略的な動きとして鋭意取り組んでいる。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。